

経済学者の中島隆信先生がお届けするエッセイ、連載の2回目は私たちが日常的に行っている行動の動機についてです。普段の何気ない無意識の行動に、相手が意外な反応をしてきた・・・と思いがたることが、あなたにもあるかもしれません。無意識と思っても、自分でも気付かない動機がありそうです。

利己主義か？利他主義か？

自分のため？それとも相手のため？

わたしたちの行動には必ず目的があります。食事をするのは食欲を満たすためですし、病院に行くのは病気を治すためです。それでは何のために働くのでしょうか。まずはお金を稼ぐためでしょう。豊かな生活は、美味しいものを食べたり旅行したりすることによってもたらされます。そのためには働いて収入を得なければなりません。しかし、それだけが働く目的ではないはずです。なぜなら、見返りだけが目的だとすると、働く意欲を失いかねない仕事の中には多くあるからです。

大学の授業がつまらなくなる理由

例えば、大学教授の仕事である研究、教育、学

事のうち、研究と学事には見返りがあります。いい研究をする教授は研究資金を得やすくなり、特に素晴らしい成果を上げればノーベル賞も夢ではありません。一方、学事に熱心な教授は教職員からの信望を得て、学部長や理事など学内の要職につき可能性が高まります。それに対して教育には見返りはありません。授業を熱心にやればそれだけ教授の負担が増え、研究のための時間が犠牲になってしまいます。

こうして、大学教授が見返りの少ない仕事に熱心に取り組まなくなれば、大学の授業は必然的につまらないものになってしまうのです。

授業を熱心に行う教授の動機

でも、授業を熱心に行う教授は少なからずいま



中島 隆信 なかじま たかのぶ

経済学者。慶應義塾大学商学部教授。専門は応用経済学。1960年生まれ。83年慶應義塾大学経済学部卒業、01年同大学博士号(商学)取得。01～07年7月、09年～慶應義塾大学商学部教授、07～09年3月内閣府大臣官房統計委員会担当室長。

寺、障害者、「オバサン」、刑務所といった、経済学とは一見縁遠いと思われる対象を、経済学の視点から一般向けに論じた著書多数。また、「大相撲の経済学」を著すなど大相撲にも造詣が深く、大相撲野球賭博問題を契機として設置された日本相撲協会「ガバナンスの整備に関する独立委員会」の委員に就任し、副座長として年寄名跡の売買禁止などを内容とする相撲協会改革案についての意見書を取りまとめている。

す。なぜ何の見返りもないのに熱心に講義をするのでしょうか。

ひとつに教授が教育に関する信念を持っていることが考えられます。例えば、学生に一定レベルの学問を授けることが自分に課せられた使命だというものです。

このとき教授は自分の信念に従って行動している、学生がそれに対してどう思っているかは関係ありません。つまり、自己満足のために教育しているともいえるわけで、この教授の動機は「利己主義的」といえます。

もうひとつは、学生が楽しそうに授業を聞いている姿を見て満足する教授です。学生の反応に常に気を配り、ときには冗談を織り交せて授業に飽きないよう工夫します。ここでは学生を喜ばせることが授業の動機になっていますので、この教授は「利他主義的」といえます。

さてどちらの動機が望ましいのでしょうか。

どちらの動機にも長短あり

どちらの動機が望ましいかは一概に判断できません。例えば、利他主義的な教授は学生の反応が気になりますので、自分の講義に対して学生の反応が芳しくなかったり、理解度が今ひとつだったときにはやる気を失ってしまうかもしれません。一生懸命考えてきたギャグに若者の冷やかな視線が突き刺さったら、二度と冗談など言うまいと思うでしょう。良薬口に苦し。本当は学生のため

になることでも、学生の表面的な反応ばかりを気にすると、いつの間にか大切な事を教えないようになってしまいかねません。

その点、利己主義的な教授はぶれません。自分の信念に基づいて講義をしているわけですから、学生の反応は関係ないのです。教え方も変わりませんし、やる気を失うことはありません。

もちろん、利己主義も万全ではありません。学生の適性を見極めず一方的に課題を押しついたり、思い通りにならないと腹を立てて学生を叱りつけたりする可能性もあります。これが時折、事件としてニュースになる、アカハラ（アカデミックハラメント）と呼ばれるものです。

利己主義が暴走しやすい子育て

子育ても一種の教育ですので、親の動機には利己主義と利他主義の両面があります。ただ、子どもは未成熟なので、親が子どもの意に沿わない介入をせざるを得ないこともあります。例えば、虫歯予防のため、ときに子どもから大好きなお菓子を奪い上げなければなりません。子どもが喜ぶことだけやっていては子育てではできないので、親の方でも、利己主義なのか利他主義なのか良く分からなくなってきました。そうした中では、子育てでは親の自己満足的な要素が強くなる可能性がります。ここで問題となるのは、大学と違って家庭での子育ては利己主義の暴走の判別がつきにくいという点です。なぜなら、子どもを大きな声で

連載エッセイ 経済学的思考のススメ

第2回

利己主義か？利他主義か？

叱りつけ、手を上げる親がいたとしても、それは躰の範囲内と容認される傾向があるからです。

中には、「子どもの将来のため今のうちに叱っておかなければ」という親もいるでしょう。これは、利他主義のようにも見えます。しかし、「子どもの将来のため」という親の躰の背後には「子育てはこうあるべき」「子どもはこう育って欲しい」という自らの理想像があることは否定できないでしょう。例えば、親が子どもの受験に夢中になるのは、「わが子を有名校に」という自身の欲求によるといえなくもありません。子育てが真に利他主義であるか否かは、子どもとのコミュニケーション如何なのかもしれません。

今、子育て中の方は、振り返って考えてみてはいかがでしょうか。親が冷静に、利他主義で子育てをしている間は問題ないでしょうが、利己主義が暴走すれば、そこには虐待など深刻な事態を招いてしまう危険も隠されているのです。

家事労働の動機は

普通、炊事、洗濯、掃除といった家事労働には金銭的な見返りや名誉は存在しません。そこで、家事労働を担当する専業主婦の場合、その動機を考える必要があります。

まず、甘い新婚時代を想像してみましょう。夫は妻の作る料理に舌鼓を打ち、「美味しいね」とニコしながら食べてくれます。妻はそうした夫の言葉をまた聞きたくて、さらに料理の技に磨き

をかけることでしょう。これは相手の喜ぶ顔が励みになっていきますので、利他主義的動機と解釈できます。

ところが、結婚して何年か経過すると、こうした甘い時代は過ぎ、夫は妻の料理の味に慣れ、いちいち褒めなくなるでしょう。そうなると、妻にとつて家事労働に力を注ぐ動機は失われます。

そこで妻には2つの選択肢があると考えられます。ひとつは家事労働の質を落とすことです。料理はあまり手をかけず簡単なものにします。特別に夫のために追加的な家事はやりません。

もうひとつは、利己主義的動機への転換です。家事労働自体を妻にとつて自己満足の対象とするのです。美味しい料理を作る目的は夫を喜ばせるためではなく、自分の料理の腕を上げるためだと考えます。また、掃除は、自分がきれいな家で気分良く過ごすためだと解釈します。こうすれば夫の反応は気にしなくて済むようになるのです。

夫婦の間では利他主義が重要

夫婦がともにフルタイムで働いている家庭では、家事労働や子育てをすべて妻が負担することは難しくなります。そこで夫婦がうまくやっていくためには、利他主義的動機が重要になってきます。

例えば、ある共働き夫婦が交代で夕飯の用意を担当しているとします。この日は妻の担当でした。さて、仕事を早めに切り上げてオフィスを出ようとした妻のところ上司がやってきて、「取引先と

の急な商談があり、これから食事をしながら打ち合わせをしなければならぬ。この商談は君に担当させたいので同席してもらえないか」と言われたとします。

妻はこの日の夕飯の担当になっていることが気にはなりましたが、自分のキャリアを考えるととても断れませんので、とりあえず夫にはメールで「今晚は仕事で遅くなる、ゴメン」とだけ伝え、会食に同席しました。

そこで妻は、その商談の担当を任されたことが異例の抜擢であることを知ります。会食を終えたあとも、上司からの信頼を得たことの嬉しさと、仕事のやりがいと想像したときの興奮を抑えきれず、ウキウキしながら帰宅しました。

さて、家で待っていた夫はどのように妻を迎えたのでしょうか。まず、担当の夕飯を作らず遅く帰宅した妻に対して、「こんな遅くまで何をしていたんだ。俺は今までずっと食べないで待っていたんだぞ！」と怒りをぶつける夫は明らかに利己主義的です。妻の満足は眼中になく、自分の満足のことしか考えていません。他方、「そんな商談を任せられるなんてすごいじゃないか。俺のことは気にしないで精一杯頑張れ」と励ます夫は利他主義的といえます。なぜなら、妻のウキウキした姿を見て自分も同じように嬉しくなってしまう人だからです。こうした共働きの場合は後者が理想かもしれないが、企業で働く夫と専業主婦の妻といった夫婦では、仕事に分業されているのでお互い干渉し

利己主義か？利他主義か？

あわず利己主義的な行動もさほど問題にはなりません。ただ、子育てや老親の介護のことなど家庭内で問題が起き、二人で対処しなければならなくなったとき、利己主義が表に出る可能性はあります。互いの信頼関係が失われ、最後には熟年離婚に至るケースも出てくるかもしれません。

利他主義の見極め方

では利己主義と利他主義の簡単な見分け方をここで教えましょう。あなたにとつて嬉しいことがあったときの相手の様子をよく観察してみてください。相手も喜んでくれているならば、あなたの相手は利他主義的な人です。一方で、自分のことも見つけてみましょう。相手が喜んでいる様子を見て嫉まなければあなたは利己主義的です。いかがでしょうか。

ここで大切なことは、夫婦が互いに相手の本性を探りあうことではなく、幸せな夫婦生活を送るための知恵を出すことです。妻が美味しい料理を作ってくれたら褒める、夫が珍しく子どもの相手をしたら嬉しそうな顔をする、互いに家事を分担するなら週末は二人揃って美味しいものを食べに行く、などです。

こうしたことはわざとらしく見えるかもしれませんが、これまで私たちは円満な家庭生活を送るためにさまざまな工夫をしてきたはずで、利他主義的な行動もその内のひとつと考えるべきなのです。